

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：ガザのハマースをめぐる状況

2013年5月15日、ファタハとハマースは、カイロの会合で、3カ月以内に評議会・大統領選挙のための選挙管理内閣を創設することに合意した。しかし、8月15日までに同合意は履行されず、パレスチナの国民和解は再び先送りされた。ファタハ幹部は、パレスチナ人は国民和解への信頼を失っていると述べた。またファタハは、自分たちは和解合意の履行に前向きだったが、ハマースは選挙を行うような状況ではないとしたと説明している。8月13日、選挙管理内閣の創設に見切りをつけたアッバース大統領は、ハムダッラー暫定首相に再度首相に就任して組閣するよう要請した。

ガザのハマースをめぐる状況は厳しい。エジプトは、今年春頃からガザ・エジプト境界付近で武装勢力に対する掃討作戦を強化していた。4月頃には、エジプト軍はガザへの地下トンネルの8割近くを破壊したと報道されている。同作戦の結果、生活必需品の密輸は不可能になったようだ。7月にムルシー大統領を解任した後、エジプト軍は、シナイ半島の武装勢力掃討作戦をさらに拡大し、ガザとエジプトを結ぶラファ境界の閉鎖を強化した。ガザのハマース幹部は、再三、境界の再開を要請しているが、エジプト軍は応じていない。

ハマースにとって、関係が良好だったエジプトのムスリム同胞団政権の崩壊は痛手だった。さらにエジプト軍は、シナイ半島の治安悪化にハマースが関係しているとの疑惑を持っている。それに加えて、エジプトの世俗勢力が非難するムルシー大統領あるいはムスリム同胞団の政治的体質を、ガザのハマースも共有している。8月19日には、エジプトでの革命運動と同じ形の運動の呼びかけが行われたと報道されている。

評価

今年の春来日したエジプトの複数の世俗系野党幹部らが、ムルシー前大統領とムスリム同胞団を非難した点は、問題解決のための政策がないこと、野党勢力と対話せず、全部自分たちで決める体質だった。こうした体質をガザのハマースも持っている。2006年にパレスチナ評議会選挙で勝利し、PAの与党となった後、ハマースは政策らしい政策を行っていない。その結果、ガザは孤立し、封鎖状態にある。ガザの住民がハマースの統治に満足しているはずはないが、今までのところ、住民たちの不満の表明はほとんどない。ガザの治安はハマース治安部隊が掌握しているので、エジプトとは事情は大きく違う。しかし、住民の不満が増大しているのは確実だろう。

(中島主席研究員)